

9月の中小企業月次景況調査

〔平成30年9月末現在〕

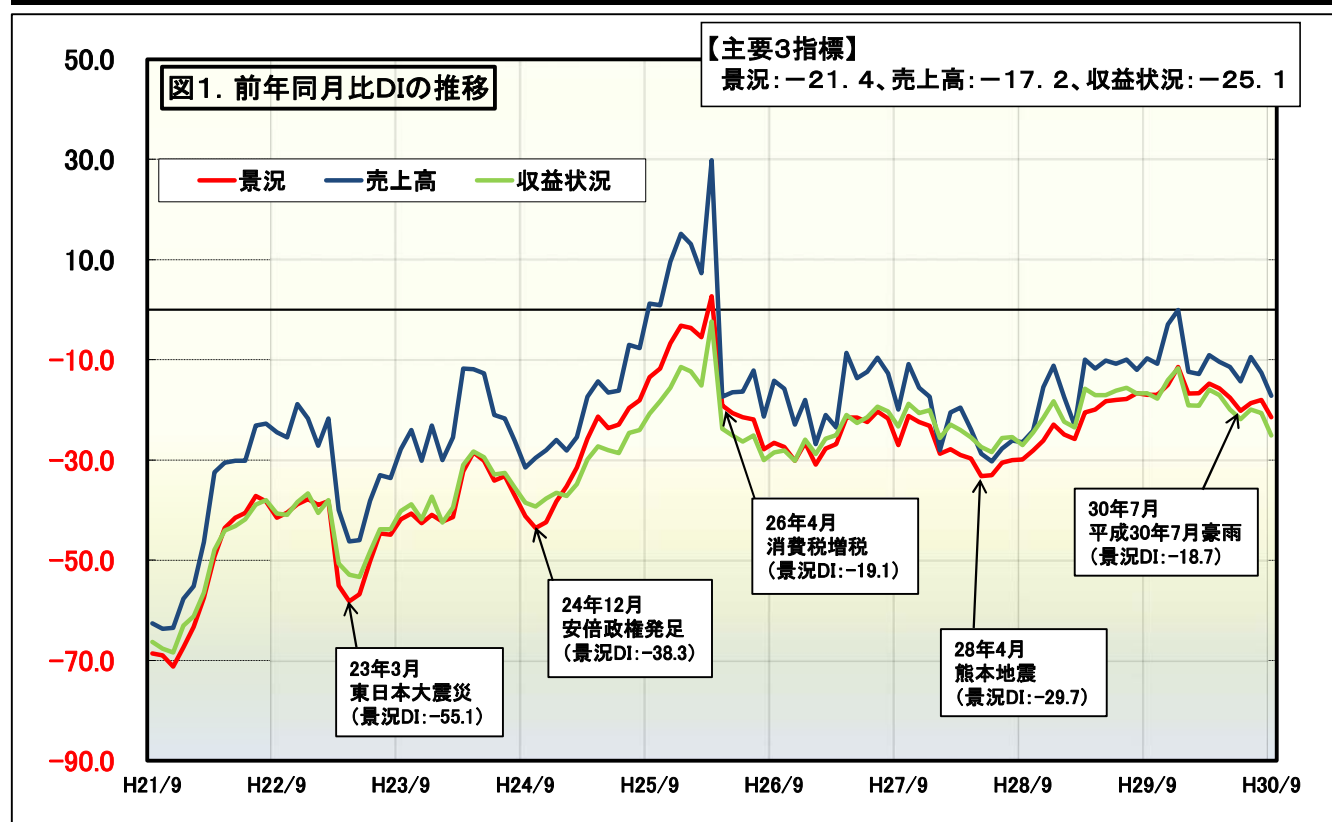


全国中小企業団体中央会
National Federation of Small Business Associations

平成30年10月22日発表

◎9月のDIは、9指標中7指標が悪化。主要3指標については、 全指標が3ポイント以上悪化した。

- 当月は、2度にわたる大型台風及び北海道胆振東部地震の発生が中小企業の景況感に大きく影響した。
- 自然災害の影響は、建物倒壊等の直接被害に留まらず、物流停滞に伴う商品・原材料の供給不足や、消費マインド低下等の幅広い領域に及んでおり製造業・非製造業双方の景況DIを下押しする結果となった。
- 原材料費・人件費・燃料費等の経営コスト上昇圧力は引き続き強く、人手不足が慢性化していることから、中小企業の先行きは引き続き注視していく必要がある。



※DIとは、Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略で、好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値です。

本調査は、都道府県中央会に設置されている情報連絡員〔中小企業の組合（協同組合、商工組合等）の役職員約2,600名に委嘱〕による調査結果です。

（本発表資料のお問い合わせ先）

全国中小企業団体中央会

担当：政策推進部

TEL 03-3523-4902

調査の対象は、情報連絡員が所属する組合の組合員の全体的な
景況(前年同月比)です。

<https://www.chuokai.or.jp>

9月の調査結果のD I 概況

【指標D Iの動向とポイント】

1. 9月のD Iは、9指標中7指標が前月比で悪化。
2. 主要3D Iについては、全指標が3ポイント以上悪化。いずれも直近1年間の最低値となり、中小企業の景況感は悪化している。
3. 雇用人員D Iは前月比0.1ポイント悪化の-8.7ポイント。厳しい雇用環境が続いており、広範な業種において人手不足が一層深刻な状況となっている。

全指標の前年同月比D Iの推移（直近1年間）

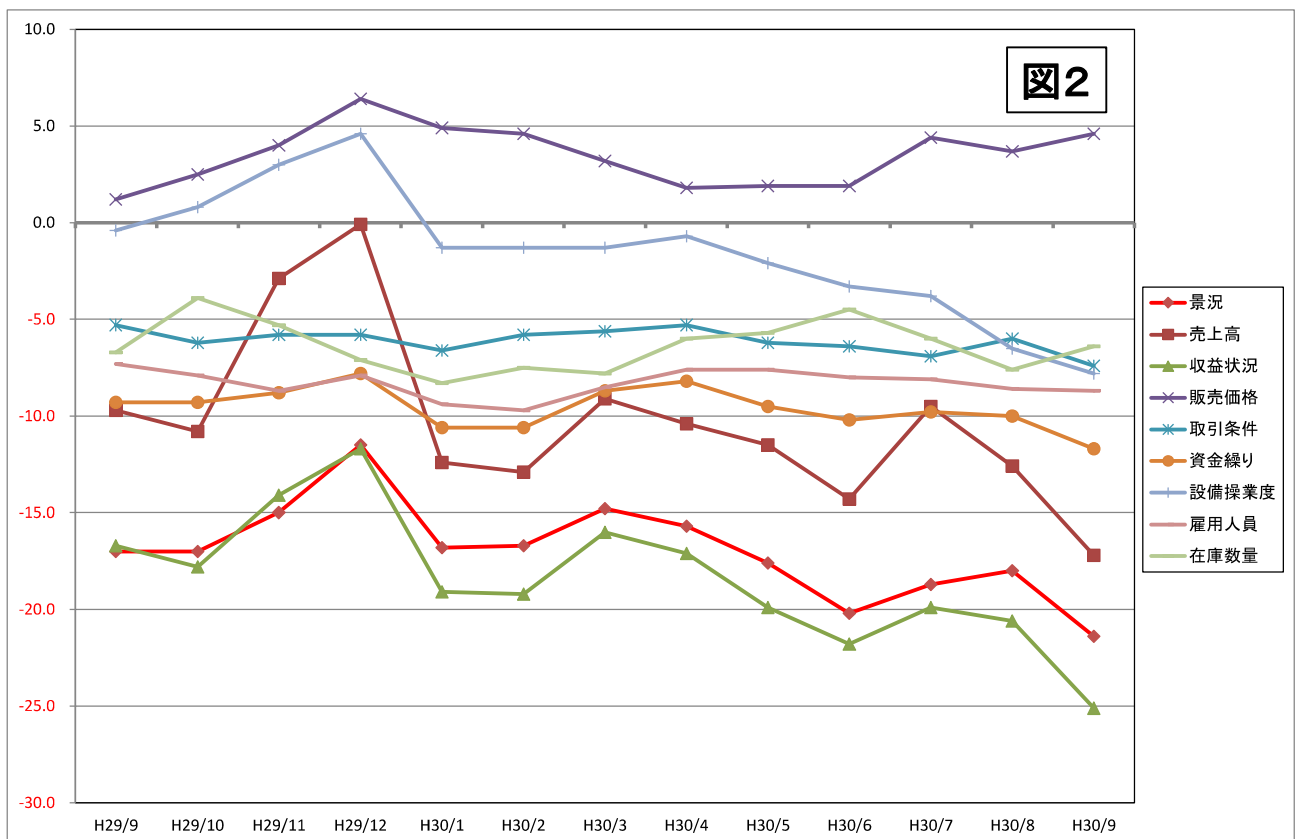


表1

	H29 9月	10月	11月	12月	1月	H30 2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	前月比
景 況	-17.0	-17.0	-15.0	-11.5	-16.8	-16.7	-14.8	-15.7	-17.6	-20.2	-18.7	-18.0	-21.4	-3.4
売 上 高	-9.7	-10.8	-2.9	-0.1	-12.4	-12.9	-9.1	-10.4	-11.5	-14.3	-9.5	-12.6	-17.2	-4.6
収益状況	-16.7	-17.8	-14.1	-11.7	-19.1	-19.2	-16.0	-17.1	-19.9	-21.8	-19.9	-20.6	-25.1	-4.5
販売価格	1.2	2.5	4.0	6.4	4.9	4.6	3.2	1.8	1.9	1.9	4.4	3.7	4.6	0.9
取引条件	-5.3	-6.2	-5.8	-5.8	-6.6	-5.8	-5.6	-5.3	-6.2	-6.4	-6.9	-6.0	-7.4	-1.4
資金繰り	-9.3	-9.3	-8.8	-7.8	-10.6	-10.6	-8.7	-8.2	-9.5	-10.2	-9.8	-10.0	-11.7	-1.7
設備操業度	-0.4	0.8	3.0	4.6	-1.3	-1.3	-1.3	-0.7	-2.1	-3.3	-3.8	-6.5	-7.8	-1.3
雇用人員	-7.3	-7.9	-8.7	-7.9	-9.4	-9.7	-8.5	-7.6	-7.6	-8.0	-8.1	-8.6	-8.7	-0.1
在庫数量	-6.7	-3.9	-5.3	-7.1	-8.3	-7.5	-7.8	-6.0	-5.7	-4.5	-6.0	-7.6	-6.4	1.2

【情報連絡員報告から総括する景況調査のPOINT】

1. 主要3指標は、全指標が3ポイント以上前月比悪化。その他指標についても、取引条件・在庫数量を除く全指標が前月比悪化した。
2. 原材料費・燃料費等の経営コストが上昇基調である環境下において、2度にわたる大型台風及び北海道胆振東部地震の発生が生産・物流・消費等に大きく影響し、中小企業の景況感を下押しした。自然災害の影響は、建物倒壊等の直接被害に留まらず、物流停滞に伴う商品・原材料の供給不足や、消費マインド低下等の幅広い領域に及んでおり、製造業・非製造業双方の景況DIが悪化する結果となった。
3. 人手不足は慢性化しており、ほぼ全ての業種から深刻化を指摘する声が多数寄せられた。

《主な報告内容》

◇複数発生した災害の影響

- ・台風、地震・停電の影響で、工場内の設備や建物の損壊があったほか、出来上がった製品への被害もあり、各企業収益は減少。機械設備の調整・点検もあり、操業度の低下もあった。（北海道／金属機械）
- ・この1年ほど前年比プラスで推移していたが、当月はほぼ前年並みで上向き感が鈍化。地震や台風の影響で資材の供給に混乱が生じた為、生産計画にも多くの変更が必要であった。（三重県／輸送用機械器具製造）
- ・台風21号の影響で、工場建屋・電気設備並びに加工機等に風水害被害を受けた組合員が多数発生。事業の継続を諦めかける組合員もいた。（和歌山県／建具製造）
- ・北海道での地震、相次ぐ台風により青果・鮮魚の入荷や店頭販売が先月に続き低調であった。野菜・魚相場の高値傾向は当面続く見通し。景気回復の要因が見当たらない。（広島県／各種商品小売業）
- ・台風で警報発令が相次ぎ、街の施設も臨時休館が続いた。店も「開けてもダメ」と諦めムードで、朝から閉めている店が従来に比べて多かった。（香川県／商店街）

◇消費マインドの低下

- ・紳士服を取り扱う専門店の売上が低下している。業界の景況が悪化している要因として、消費の低迷や、度重なる自然災害によって消費マインドが低下していることが挙げられる。（岐阜県／繊維工業）
- ・二度の台風による臨時休業や時間短縮に加え、退店増加により売り場面積が縮小。台風後の消費マインド低下により売上は厳しい状況。（滋賀県／ショッピングセンター）
- ・度重なる台風や地震等の自然災害で消費意欲が冷え切っている。（大阪府／商店街）
- ・水害の影響は少なくなったものの、毎週末の台風などで観光客のマインドが低下しており、弱含みの状況。県と市・国のインセンティブなどで何とか維持をしている状況が見受けられる。（島根県／ホテル）
- ・消費者の畳替え工事等の注文年数が長期化している。以前は5～8年以内だったが、現在は10年以上～20年経過してからの注文が徐々に増加しつつある。今年は台風が多発し、受注に影響も出ている。（福岡県／畳等生活雑貨製品製造業）

◇人手不足の一層の深刻化

- ・9月は台風等の天候悪化による業務のキャンセルや警備員不足による受注削減により売上が下方に向かっている。人材不足は深刻であり、求人募集を行うが応募者はほぼいない状況。（山梨県／警備業）
- ・組合員企業の工場従業員採用が年々厳しい状況になっている。今後、人手不足の状況が改善されなければ、企業の存続に多大な影響が出る。（東京都／缶製造業）
- ・公共工事発注のピークを迎え、仕事量は安定しているが、原油の高騰と人員不足が問題。相変わらずの工事作業員に加え、交通誘導員も不足しており、事業者間で取り合いになることもある。（山口県／管工事業）
- ・営業収入、輸送人員とも減少しており、非常に厳しい経営状況が続いている。乗務員不足が深刻化しており、配車依頼に十分対応できていない状況。（香川県／タクシー）

※後述の「Pick up!」ならびに「情報連絡員からの報告（要旨）」等も参照。

1. 景 況

	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 18.0	▲ 21.4	▲ 3.4	悪化	↘
製造業	▲ 15.4	▲ 19.9	▲ 4.5	悪化	↘
非製造業	▲ 20.0	▲ 22.5	▲ 2.5	悪化	↘
DIが大きく上昇した業種	10ポイント超	その他の非製造業			
	5～10ポイント	なし			
DIが大きく悪化した業種	10ポイント超	繊維工業、木材・木製品			
	5～10ポイント	印刷、小売業、商店街			

表2. 業種別【景 況】DIの推移（前年同月比）

業 種 名	29/9	29/10	29/11	29/12	30/1	30/2	30/3	30/4	30/5	30/6	30/7	30/8	30/9	前月比
全 体	-17.0	-17.0	-15.0	-11.5	-16.8	-16.7	-14.8	-15.7	-17.6	-20.2	-18.7	-18.0	-21.4	-3.4
製 造 業	-15.3	-13.1	-8.8	-7.4	-11.6	-13.4	-11.5	-12.4	-12.1	-16.1	-17.1	-15.4	-19.9	-4.5
食料品	-29.8	-27.5	-21.7	-19.1	-27.0	-29.8	-25.6	-27.2	-26.3	-30.1	-32.6	-32.3	-33.6	-1.3
繊維工業	-36.3	-31.7	-25.4	-22.1	-27.0	-17.8	-20.7	-19.3	-19.3	-24.0	-27.5	-23.4	-33.9	-10.5
木材・木製品	-17.7	-23.8	-21.4	-21.1	-25.5	-28.1	-28.8	-28.7	-24.1	-23.9	-28.4	-24.8	-35.9	-11.1
紙・紙加工品	-17.4	-8.3	-8.4	-9.6	-14.3	-33.3	-16.7	-27.3	-33.3	-34.8	-42.9	-39.2	-42.8	-3.6
印刷	-30.1	-31.1	-33.9	-29.5	-29.5	-29.5	-30.1	-37.1	-46.7	-40.3	-43.5	-39.0	-45.9	-6.9
化学・ゴム	-3.5	-6.9	-3.5	3.5	3.5	3.3	6.9	0.0	0.0	-3.4	-17.3	-6.9	-10.4	-3.5
窯業・土石製品	-21.3	-17.8	-8.7	-14.8	-23.0	-32.1	-23.5	-16.4	-20.4	-25.2	-23.0	-23.4	-26.5	-3.1
鉄鋼・金属	8.6	11.4	17.1	20.1	17.4	20.6	19.3	20.8	17.2	10.1	7.5	12.6	8.8	-3.8
一般機器	12.4	20.7	20.1	19.4	23.0	15.0	15.0	16.0	15.9	10.7	12.5	10.6	7.1	-3.5
電気機器	18.4	14.3	22.8	25.0	11.4	23.6	18.1	6.1	26.7	18.7	21.2	12.9	15.1	2.2
輸送機器	-17.0	-7.5	2.5	2.4	7.5	2.4	2.5	-5.0	2.5	-7.3	2.4	0.0	2.6	2.6
その他の製造業	-23.5	-23.1	-27.7	-18.8	-23.1	-28.8	-20.7	-32.1	-24.0	-28.3	-19.2	-20.3	-19.6	0.7
非 製 造 業	-18.4	-20.0	-19.6	-14.7	-20.7	-19.3	-17.5	-18.2	-21.7	-23.3	-20.0	-20.0	-22.5	-2.5
卸 売 業	-19.9	-21.9	-21.2	-14.2	-20.6	-19.2	-20.0	-24.9	-24.0	-28.1	-21.5	-20.9	-22.1	-1.2
小 売 業	-33.8	-33.7	-35.9	-27.9	-30.3	-28.6	-28.1	-27.9	-28.1	-27.8	-25.2	-26.6	-32.7	-6.1
商 店 街	-31.0	-32.9	-31.5	-23.1	-35.2	-38.7	-31.7	-30.7	-33.3	-36.8	-41.1	-37.9	-44.5	-6.6
サービ 業	-12.3	-14.8	-10.4	-10.2	-15.2	-14.2	-8.9	-6.8	-13.1	-17.1	-17.1	-14.8	-16.5	-1.7
建 設 業	1.6	1.2	-0.9	-0.4	-6.7	-2.5	-3.8	-8.4	-10.5	-9.6	2.1	-3.3	-2.1	1.2
運 輸 業	-10.6	-16.5	-14.1	-7.6	-16.7	-13.9	-10.5	-10.0	-27.3	-28.2	-23.7	-20.6	-23.2	-2.6
その他の非製造業	-14.3	-10.7	-17.9	-7.4	-11.1	-3.7	-17.9	-11.1	-10.7	-7.2	-21.4	-22.2	-3.7	18.5

Pick up!

「その他の非製造業」：公共事業や年末に向けたイベント受注が最盛期を迎えることに加え、豪雨等に伴う繰延案件の発生等により景況感が大幅に改善し、**前月比18.5ポイント上昇**。

「繊維工業」：経営コストの上昇や消費マインドの低下に加え、台風21号による直接被害の影響が大きく、主要3指標が全て悪化（景況は**前月比10.5ポイント悪化**）。

2. 売上高

	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 12.6	▲ 17.2	▲ 4.6	悪化	↘
製造業	▲ 11.1	▲ 17.1	▲ 6.0	悪化	↘
非製造業	▲ 13.8	▲ 17.3	▲ 3.5	悪化	↘
DIが大きく上昇した業種	10ポイント超	化学・ゴム、電気機器、その他の非製造業			
	5～10ポイント	輸送機器、その他の製造業			
DIが大きく悪化した業種	10ポイント超	繊維工業、紙・紙加工品、窯業・土石製品、鉄鋼・金属、一般機器			
	5～10ポイント	印刷、卸売業、小売業			

表3. 業種別【売上高】D I の推移（前年同月比）

業 種 名	29/9	29/10	29/11	29/12	30/1	30/2	30/3	30/4	30/5	30/6	30/7	30/8	30/9	前月比
全 体	-9.7	-10.8	-2.9	-0.1	-12.4	-12.9	-9.1	-10.4	-11.5	-14.3	-9.5	-12.6	-17.2	-4.6
製 造 業	-4.7	-3.8	3.5	4.1	-6.6	-8.2	-3.5	-6.3	-3.9	-7.1	-7.9	-11.1	-17.1	-6.0
食料品	-24.3	-21.5	-7.4	-4.0	-21.5	-27.8	-13.9	-20.6	-18.7	-26.5	-28.6	-31.3	-35.7	-4.4
繊維工業	-25.0	-17.1	-7.9	-13.1	-13.9	-9.7	-10.3	-17.7	-16.3	-16.0	-16.1	-12.1	-22.5	-10.4
木材・木製品	-5.9	-19.5	-11.1	-16.0	-19.4	-26.4	-20.3	-13.9	-20.5	-21.2	-23.2	-27.4	-30.7	-3.3
紙・紙加工品	-26.1	-4.1	4.2	9.6	14.3	-23.8	-20.9	0.0	4.1	-4.4	-14.3	-8.7	-38.1	-29.4
印刷	-31.7	-31.2	-24.2	-18.0	-41.0	-34.5	-19.0	-35.5	-41.7	-38.7	-38.7	-45.8	-52.4	-6.6
化学・ゴム	24.2	38.0	20.7	31.1	17.2	30.0	31.0	0.0	25.0	24.2	6.9	-3.4	10.4	13.8
窯業・土石製品	-5.2	-17.8	-2.9	-4.4	-32.6	-27.7	-22.8	-7.4	-5.3	-10.4	-15.6	-14.6	-25.8	-11.2
鉄鋼・金属	23.0	25.0	26.4	33.0	25.3	26.4	25.7	32.1	27.6	24.5	29.6	22.4	11.7	-10.7
一般機器	18.6	31.5	38.6	37.2	32.8	24.8	28.3	16.0	21.4	21.2	25.9	20.3	7.0	-13.3
電気機器	42.1	42.8	31.4	19.4	25.7	34.2	18.2	9.1	40.0	3.2	27.2	-9.7	15.2	24.9
輸送機器	-2.4	5.0	7.5	7.3	12.5	2.4	12.1	0.0	12.2	9.8	-2.4	4.7	10.3	5.6
その他の製造業	-19.7	-17.3	-14.8	-7.5	-21.1	-19.2	-18.9	-32.1	-27.7	-18.9	-21.2	-25.9	-19.6	6.3
非 製 造 業	-13.4	-16.1	-7.7	-3.4	-16.8	-16.4	-13.3	-13.7	-17.4	-19.7	-10.8	-13.8	-17.3	-3.5
卸 売 業	-16.7	-13.2	-6.0	6.0	-11.4	-11.4	-6.4	-18.9	-14.8	-21.0	-1.8	-7.4	-17.1	-9.7
小 売 業	-22.1	-29.3	-21.1	-8.0	-18.6	-16.0	-25.2	-26.6	-23.7	-28.4	-9.5	-13.9	-23.7	-9.8
商 店 街	-29.2	-41.4	-18.8	-16.5	-33.3	-41.0	-21.5	-18.1	-29.1	-26.4	-34.2	-39.7	-41.3	-1.6
サ ー ビ ス 業	-3.9	-11.2	-4.0	-8.0	-22.0	-19.4	-6.7	-5.1	-15.3	-17.5	-21.1	-13.0	-14.1	-1.1
建 設 業	-7.5	-0.4	3.3	-3.8	-10.6	-5.4	-14.7	-8.5	-8.9	-11.4	1.2	-5.0	-4.2	0.8
運 輸 業	0.8	1.5	11.2	20.6	-0.8	-10.7	0.0	3.1	-12.8	-10.7	-5.3	-8.4	-8.6	-0.2
その他の非製造業	-7.2	3.6	-14.3	-7.4	-18.5	0.0	7.1	7.4	-3.6	0.0	10.7	-22.2	14.8	37.0

Pick up!

「電気機器」：産業用ロボット等の受注が堅調であり、前月比24.9ポイント上昇。一方で、貿易摩擦の影響や人手不足・調達コスト上昇等を懸念する声も多く、先行きについては慎重な見通し。

「小売業」：2度にわたる台風の影響により、物流の停滞・販売活動の制限・消費マインドの大幅低下等のマイナス要因が発生し、主要3指標が全て悪化（売上高D Iは前月比9.8ポイント悪化）。

3. 収益状況

	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 20.6	▲ 25.1	▲ 4.5	悪化	↘
製造業	▲ 19.0	▲ 24.7	▲ 5.7	悪化	↘
非製造業	▲ 22.0	▲ 25.4	▲ 3.4	悪化	↘
DIが大きく上昇した業種	10ポイント超	電気機器、その他の非製造業			
	5～10ポイント	輸送機器、建設			
DIが大きく悪化した業種	10ポイント超	繊維工業、木材・木製品、化学・ゴム、窯業・土石製品、一般機器、小売業			
	5～10ポイント	その他の製造業、商店街			

表4. 業種別【収益状況】DIの推移（前年同月比）

業 種 名	29/9	29/10	29/11	29/12	30/1	30/2	30/3	30/4	30/5	30/6	30/7	30/8	30/9	前月比
全 体	-16.7	-17.8	-14.1	-11.7	-19.1	-19.2	-18.0	-17.1	-19.9	-21.8	-19.9	-20.6	-25.1	-4.5
製 造 業	-14.4	-14.0	-9.7	-8.6	-15.2	-15.8	-13.7	-14.5	-13.5	-16.9	-18.1	-19.0	-24.7	-5.7
食料品	-24.7	-25.5	-19.7	-16.1	-25.0	-29.8	-23.1	-24.6	-23.7	-28.1	-37.2	-33.9	-36.2	-2.3
繊維工業	-29.9	-26.0	-17.5	-18.8	-23.0	-15.3	-17.5	-25.3	-27.9	-25.6	-24.2	-22.6	-33.1	-10.5
木材・木製品	-15.1	-26.3	-22.3	-24.4	-29.7	-32.3	-31.3	-20.9	-25.9	-32.7	-25.0	-23.9	-34.2	-10.3
紙・紙加工品	-21.8	-25.0	-25.0	-14.3	-38.1	-57.1	-54.1	-36.4	-41.6	-39.2	-42.8	-52.2	-52.3	-0.1
印刷	-31.7	-31.1	-29.1	-19.7	-27.9	-26.2	-22.3	-37.1	-33.4	-38.7	-43.5	-52.5	-52.5	0.0
化学・ゴム	-17.3	-13.8	-10.4	-6.9	-3.4	-3.3	-13.8	-17.2	-5.6	-17.2	-31.1	-31.0	-41.4	-10.4
窯業・土石製品	-13.2	-17.7	-8.0	-8.8	-29.6	-28.4	-15.4	-14.2	-9.1	-14.0	-16.3	-15.4	-25.7	-10.3
鉄鋼・金属	1.4	2.1	6.4	5.7	7.2	6.6	5.0	7.9	5.6	5.0	14.1	2.8	-0.8	-3.6
一般機器	4.4	16.2	17.6	17.7	14.1	8.0	8.9	8.8	8.4	5.3	4.5	8.9	-3.5	-12.4
電気機器	18.4	28.5	20.0	13.9	8.5	15.8	3.0	0.0	3.4	3.1	-3.0	-16.1	3.1	19.2
輸送機器	-14.7	-7.5	-2.5	-4.9	0.0	7.4	7.3	-2.5	12.2	-2.5	-9.8	-11.6	-5.1	6.5
その他の製造業	-19.7	-21.1	-25.9	-18.8	-21.1	-21.1	-20.8	-26.4	-22.2	-20.7	-21.1	-20.3	-25.5	-5.2
非 製 造 業	-18.6	-20.7	-17.5	-14.1	-22.0	-21.8	-17.8	-19.1	-24.9	-25.7	-21.4	-22.0	-25.4	-3.4
卸 売 業	-24.5	-21.5	-14.7	-11.5	-17.4	-15.5	-16.8	-19.8	-22.1	-27.1	-13.6	-18.1	-20.8	-2.7
小 売 業	-31.2	-31.1	-33.0	-21.7	-27.7	-29.2	-27.8	-26.1	-28.9	-31.6	-25.2	-25.2	-35.6	-10.4
商 店 街	-29.9	-37.8	-27.2	-23.2	-35.2	-38.7	-25.1	-25.0	-27.8	-32.5	-36.0	-34.2	-40.7	-6.5
サ ー ビ ス 業	-8.8	-13.7	-6.5	-12.3	-19.9	-17.5	-10.7	-13.1	-24.8	-21.4	-21.9	-18.4	-21.5	-3.1
建 設 業	-6.7	-4.2	-1.2	-3.0	-8.4	-8.0	-7.1	-11.0	-15.2	-13.9	-6.9	-12.6	-7.2	5.4
運 輸 業	-8.3	-19.5	-23.1	-11.4	-26.5	-27.0	-19.5	-21.6	-34.8	-33.6	-31.2	-29.0	-33.3	-4.3
その他の非製造業	-7.2	0.0	-14.3	-11.1	-25.9	-14.8	-14.3	-11.1	-14.3	-7.2	-17.9	-25.9	-7.4	18.5

Pick up!

「建設」：公共事業発注ピーク時期において災害復旧工事や消費増税前の需要が発生していることから、主要3指標が全て上昇。収益状況DIは前月比5.4ポイント上昇した。人手不足の状況は不変。

「木材・木製品」：資材不足・原材料価格の高騰等が続いている環境下において自然災害が相次いだことにより景況感は前月比10.3ポイント悪化。

4. 資金繰り、販売価格、取引条件、設備操業度、雇用人員、在庫数量

(1) 資金繰り	前月	当月	増減	傾向
全体	▲ 10.0	▲ 11.7	▲ 1.7	悪化 ↘
製造業	▲ 8.0	▲ 10.1	▲ 2.1	悪化 ↘
非製造業	▲ 11.6	▲ 13.0	▲ 1.4	悪化 ↘
(2) 販売価格	前月	当月	増減	傾向
全体	3.7	4.6	0.9	上昇 ↗
製造業	2.3	2.5	0.2	上昇 ↗
非製造業	4.7	6.3	1.6	上昇 ↗
(3) 取引条件	前月	当月	増減	傾向
全体	▲ 6.0	▲ 7.4	▲ 1.4	悪化 ↘
製造業	▲ 4.6	▲ 5.2	▲ 0.6	悪化 ↘
非製造業	▲ 7.1	▲ 9.0	▲ 1.9	悪化 ↘
(4) 設備操業度	前月	当月	増減	傾向
製造業	▲ 6.5	▲ 7.8	▲ 1.3	悪化 ↘
(5) 雇用人員	前月	当月	増減	傾向
全体	▲ 8.6	▲ 8.7	▲ 0.1	悪化 ↘
製造業	▲ 5.4	▲ 3.7	1.7	上昇 ↗
非製造業	▲ 11.1	▲ 12.5	▲ 1.4	悪化 ↘
(6) 在庫数量	前月	当月	増減	傾向
全体	▲ 7.6	▲ 6.4	1.2	上昇 ↗
製造業	▲ 4.3	▲ 2.9	1.4	上昇 ↗
非製造業	▲ 12.8	▲ 11.6	1.2	上昇 ↗

～～Calendar 2018 国内外の主なトピックス（平成30年10月）～～

10月1日（月）

日銀短観：大企業・製造業の業況判断 DI は、前回比 2 ポイント低下のプラス 19。原油等の原材料価格上昇や人件費等のコスト増加に加え、相次いだ自然災害が企業心理を大きく下押し、3 四半期連続で悪化。

10月1日（月）

日経平均株価が続伸し、バブル経済崩壊後の高値を更新。

10月2日（火）

ニューヨーク原油先物相場が大幅続伸。米国産標準油種（WTI）の 11 月渡ししが 1 バレル = 75・30 ドルと 2014 年 11 月下旬以来約 3 年 10 カ月ぶりの高値。

10月4日（木）

トヨタ自動車とソフトバンクが新しい移動サービスの構築に向けた提携を発表。

10月5日（金）

家計調査（総務省）：1 世帯当たりの消費支出は 2 9 万 2 4 8 1 円となり、物価変動を除いた実質で前年同月比 2・8% 増と、2 カ月連続のプラスとなった。

10月8日（月）

国際通貨基金（IMF）が世界経済見通しを発表。米国と中国の貿易摩擦悪化を背景に、2019 年の世界全体の実質経済成長率は、7 月時点の予想から 0・2 ポイント引き下げ、3・7% と予測した。

10月9日（火）

全国銀行協会が他行への振り込みを24時間365日実行できる新システムを稼働

10月10日（水）

8月機械受注統計（内閣府）：「船舶・電力を除く民需」の受注額が前月比6・8%増の9815億円で、2カ月連続のプラス。人手不足などを背景にした設備投資が好調で、平成20年1月の1兆653億円以来、10年7カ月ぶりの高水準となった。

10月10日（水）

経団連が就活指針の廃止を表明。

10月11日（木）

貿易摩擦への懸念等からニューヨーク株式市場のダウ工業株30種平均が3日続落。アジアや欧州市場でも連鎖的に株価が下落し、世界同時株安の様相となった。

10月15日（月）

安倍首相が閣僚会議において消費税率を平成31年10月に8%から10%へ引き上げる予定を改めて表明。

10月30日（火）

9月有効求人倍率、失業率、小売販売額、新設住宅着工戸数等発表予定。

10月31日（水）

日銀金融政策決定会合（終了後政策金利発表）、日銀展望レポート、9月鉱工業生産（速報値）、9月新設住宅着工戸数 等発表予定

表5. 主要指標の業種別 D I(前年同月比)

(平成30年9月末現在)

	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	設備操業度	雇用人員	在庫数量
全体	-21.4	-17.2	-25.1	4.6	-7.4	-11.7	-7.8	-8.7	-6.4
製造業	-19.9	-17.1	-24.7	2.5	-5.2	-10.1	-7.8	-3.7	-2.9
非製造業	-22.5	-17.3	-25.4	6.3	-9.0	-13.0		-12.5	-11.6

(製造業)

業種名	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	設備操業度	雇用人員	在庫数量
食料品	-33.6	-35.7	-36.2	3.6	-8.2	-17.9	-19.9	-12.2	-8.7
繊維工業	-33.9	-22.5	-33.1	1.6	-3.3	-18.6	-18.5	-13.7	-4.8
木材・木製品	-35.9	-30.7	-34.2	-2.6	-4.2	-12.0	-11.9	-6.0	-4.3
紙・紙加工品	-42.8	-38.1	-52.3	4.7	-9.5	-23.8	-19.0	-19.0	0.0
印刷	-45.9	-52.4	-52.5	-18.0	-19.7	-29.5	-44.3	-16.4	-18.0
化学・ゴム	-10.4	10.4	-41.4	-6.9	-20.7	-10.3	6.9	17.2	13.8
窯業・土石製品	-26.5	-25.8	-25.7	14.8	-3.7	-10.3	-15.4	-7.4	-1.5
鉄鋼・金属	8.8	11.7	-0.8	13.8	-0.8	2.9	17.5	5.8	0.7
一般機器	7.1	7.0	-3.5	0.9	0.0	2.7	13.2	7.0	0.9
電気機器	15.1	15.2	3.1	-6.0	-3.0	0.0	18.2	24.2	21.2
輸送機器	2.6	10.3	-5.1	-15.4	-2.6	7.7	7.6	12.8	-5.1
その他の製造業	-19.6	-19.6	-25.5	0.0	-3.9	-9.8	-7.8	-1.9	0.0

(非製造業)

業種名	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	設備操業度	雇用人員	在庫数量
卸売業	-22.1	-17.1	-20.8	8.8	-11.6	-9.7		-6.9	-13.3
小売業	-32.7	-23.7	-35.6	16.3	-15.4	-20.1		-18.1	-11.3
商店街	-44.5	-41.3	-40.7	-5.5	-13.6	-25.9		-16.7	-9.9
サービス業	-16.5	-14.1	-21.5	1.8	-5.0	-10.8		-10.7	
建設業	-2.1	-4.2	-7.2	1.2	-3.8	-2.5		-6.3	
運輸業	-23.2	-8.6	-33.3	10.1	-3.1	-10.8		-19.3	
業	-3.7	14.8	-7.4	3.7	0.0	3.7		-3.7	

表6. 主要指標の業種別景況調査総括表(前年同月比)

(平)

[illegible]

(製造業)

業種	項目	業界の景況			売上高			収益状況			販売価格			取引条件			資金繰り			設備操業度		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下
食料繊維工業	品	3.1	60.2	36.7	10.2	43.9	45.9	4.1	55.6	40.3	8.2	87.2	4.6	0.5	90.8	8.7	1.0	80.1	18.9	4.1	71.9	24.0
		1.6	62.9	35.5	8.1	61.3	30.6	3.2	60.5	36.3	8.9	83.9	7.3	4.0	88.7	7.3	2.4	76.6	21.0	8.1	65.3	26.6
		1.7	60.7	37.6	10.3	48.7	41.0	5.1	55.6	39.3	9.4	78.6	12.0	2.6	90.6	6.8	3.4	81.2	15.4	6.0	76.1	17.9
		4.8	47.6	47.6	9.5	42.9	47.6	4.8	38.1	57.1	9.5	85.7	4.8	0.0	90.5	9.5	4.8	66.7	28.6	4.8	71.4	23.8
印刷		0.0	54.1	45.9	3.3	41.0	55.7	0.0	47.5	52.5	0.0	82.0	18.0	0.0	80.3	19.7	0.0	70.5	29.5	1.6	52.5	45.9
化学・ゴム		10.3	69.0	20.7	34.5	41.4	24.1	3.4	51.7	44.8	6.9	79.3	13.8	0.0	79.3	20.7	0.0	89.7	10.3	24.1	58.6	17.2
窯業・土石製品		6.6	60.3	33.1	19.1	36.0	44.9	10.3	53.7	36.0	19.9	75.0	5.1	3.7	89.0	7.4	5.1	79.4	15.4	9.6	65.4	25.0
鉄鋼・金属		19.0	70.8	10.2	28.5	54.7	16.8	13.1	73.0	13.9	15.3	83.2	1.5	3.6	92.0	4.4	7.3	88.3	4.4	27.0	63.5	9.5
一般機器		15.9	75.2	8.8	26.5	54.0	19.5	11.5	73.5	15.0	4.4	92.0	3.5	1.8	96.5	1.8	7.1	88.5	4.4	21.2	70.8	8.0
電気機器		24.2	66.7	9.1	39.4	36.4	24.2	27.3	48.5	24.2	6.1	81.8	12.1	0.0	97.0	3.0	15.2	69.7	15.2	30.3	57.6	12.1
輸送機器		15.4	71.8	12.8	28.2	53.8	17.9	12.8	69.2	17.9	0.0	84.6	15.4	7.7	82.1	10.3	10.3	87.2	2.6	17.9	71.8	10.3
その他の製造業		5.9	68.6	25.5	11.8	56.9	31.4	3.9	66.7	29.4	5.9	88.2	5.9	2.0	92.2	5.9	3.9	82.4	13.7	5.9	80.4	13.7

(非製造業)

業種	項目	業界の景況			売上高			収益状況			販売価格			取引条件			資金繰り			設備操業度		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下
卸売業		8.8	60.4	30.9	18.4	46.1	35.5	10.1	59.0	30.9	21.2	66.4	12.4	1.8	84.8	13.4	3.2	83.9	12.9			増加
小売業		4.7	57.9	37.4	21.4	33.5	45.1	8.3	47.8	43.9	27.3	61.7	11.0	0.9	82.8	16.3	4.5	70.9	24.6			5.
商店街		1.2	53.1	45.7	6.8	45.1	48.1	1.9	55.6	42.6	5.6	83.3	11.1	0.0	86.4	13.6	0.6	72.8	26.5			0.
サ－ビス業		8.3	66.9	24.8	20.1	45.7	34.2	9.4	59.7	30.9	8.3	85.3	6.5	2.2	90.6	7.2	1.4	86.3	12.2			4.
建設業		11.8	74.4	13.9	19.7	56.3	23.9	9.2	74.4	16.4	7.1	87.0	5.9	2.5	91.2	6.3	3.8	89.9	6.3			2.
運輸業		4.7	67.4	27.9	20.9	49.6	29.5	9.3	48.1	42.6	13.2	83.7	3.1	3.1	90.7	6.2	3.9	81.4	14.7			4.
その他の非製造業		11.1	74.1	14.8	25.9	63.0	11.1	3.7	85.2	11.1	3.7	96.3	0.0	0.0	100.0	0.0	3.7	96.3	0.0			0.

表7. 全国及び各地域別の【業界の景況・売上高・収益状況】(前年同月比)

(平成 30^年)

〔全 国〕

項 目 業 種	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	悪化	DI
全 体	7.4	63.8	28.8	-21.4	18.2	46.4	35.4	33.1	-25.1
製 造 業	7.9	64.2	27.8	-19.9	17.5	47.9	34.6	32.4	-24.7
非製造業	7.0	63.5	29.5	-22.5	18.7	45.2	36.0	33.6	-25.4

〔近畿地方〕

項 目	業界の景況				売上高			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI
業 種								
全 体	6.5	61.7	31.8	-25.3	18.1	47.3	34.7	-16
製 造 業	7.6	62.1	30.3	-22.7	17.4	46.2	36.4	-19
非製造業	5.5	61.4	33.1	-27.6	18.6	48.3	33.1	-14

滋賀県、京都府、奈良県、大
和、歌山県

〔北海道・東北地方〕

項 目 業 種	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	悪化	DI
全 体	4.9	62.6	32.5	-27.6	15.4	42.3	42.3	37.9	-31.4
製 造 業	1.5	61.9	36.6	-35.1	10.4	40.3	49.3	38.8	-34.3
非製造業	6.8	63.0	30.2	-23.4	18.3	43.4	38.3	37.4	-29.7

北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、
山形県、福島県

〔中国地方〕

項 目	業界の景況				売上高			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI
業 種								
全 体	9.1	65.4	25.5	-16.4	20.6	43.6	35.8	-15
製 造 業	9.7	69.0	21.2	-11.5	18.6	50.4	31.0	-12
非製造業	8.5	62.3	29.2	-20.7	22.3	37.7	40.0	-17

鳥取県、島根県、岡山県、広

〔関東・甲信越地方〕

項 目 業 種	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	悪化	DI
全 体	8.6	64.3	27.1	-18.5	19.5	48.2	32.3	29.0	-19.2
製 造 業	8.6	65.1	26.4	-17.8	21.9	48.7	29.4	27.5	-17.1
非製造業	8.6	63.7	27.7	-19.1	17.7	47.8	34.4	30.1	-20.7

茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、
東京都、神奈川県、新潟県、長野県、山梨県

〔四国地方〕

項目	業界の景況				売上高			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI
業種								
全体	8.6	57.5	33.9	-25.3	14.9	48.3	36.8	-21
製造業	5.1	61.5	33.3	-28.2	6.4	59.0	34.6	-28
非製造業	11.5	54.2	34.4	-22.9	21.9	39.6	38.5	-16

徳島県、香川県、愛媛県、高

〔東海・北陸地方〕

項 目 業 種	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	悪化	DI

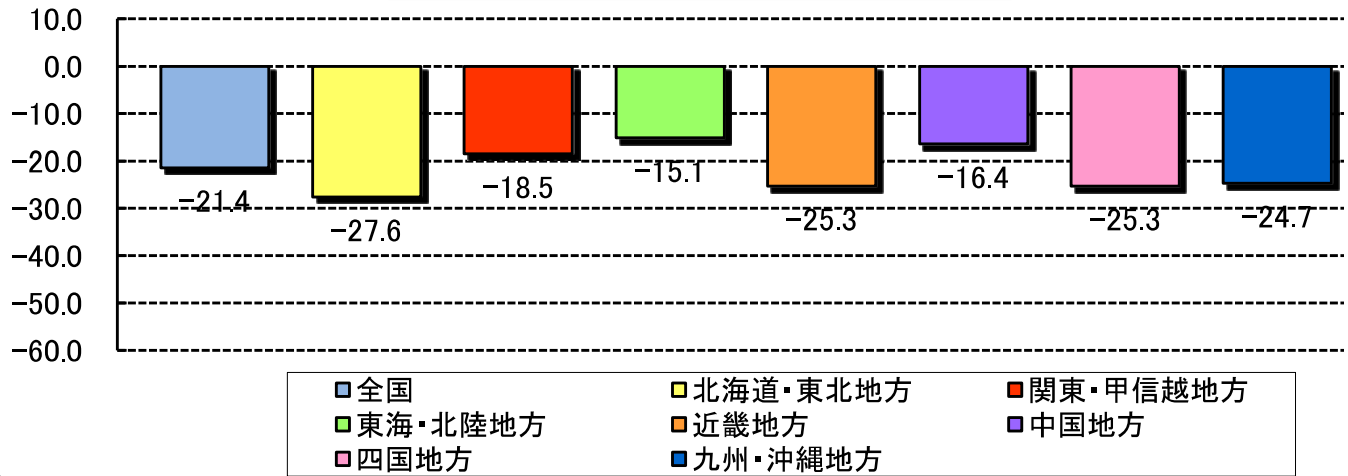
静岡県、愛知県、岐阜県、三重県、富山県、
石川県、福井県

〔九州・沖縄地方〕

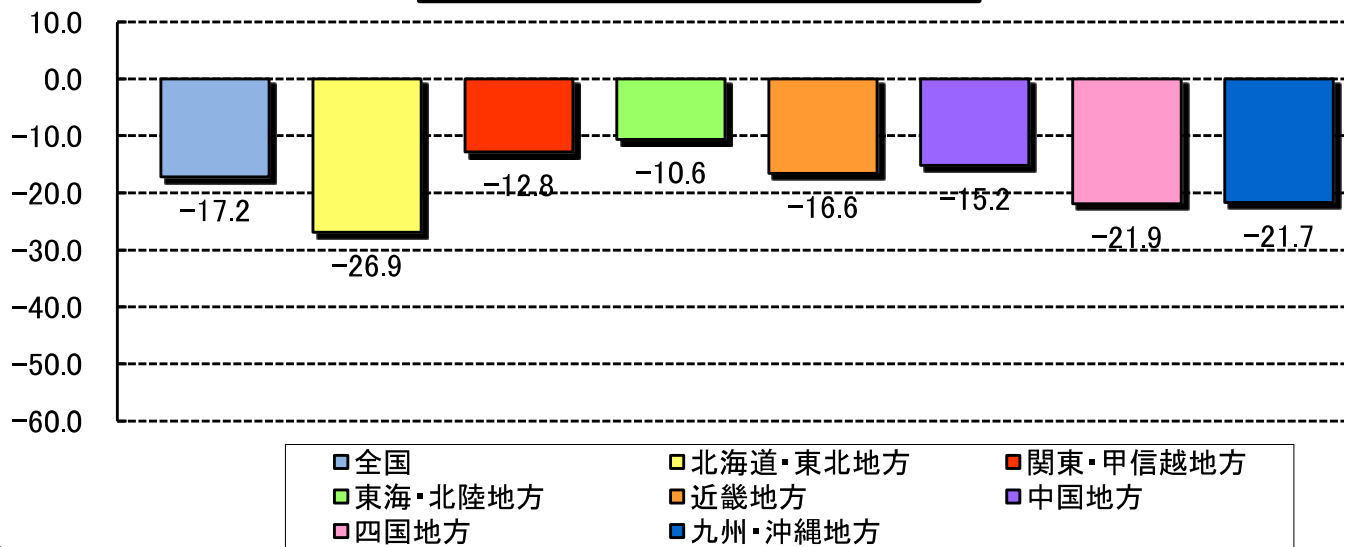
項 目 業 種	業界の景況				売上高			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI

福岡県、佐賀県、長崎県、熊
宮崎県、鹿児島県、沖縄県

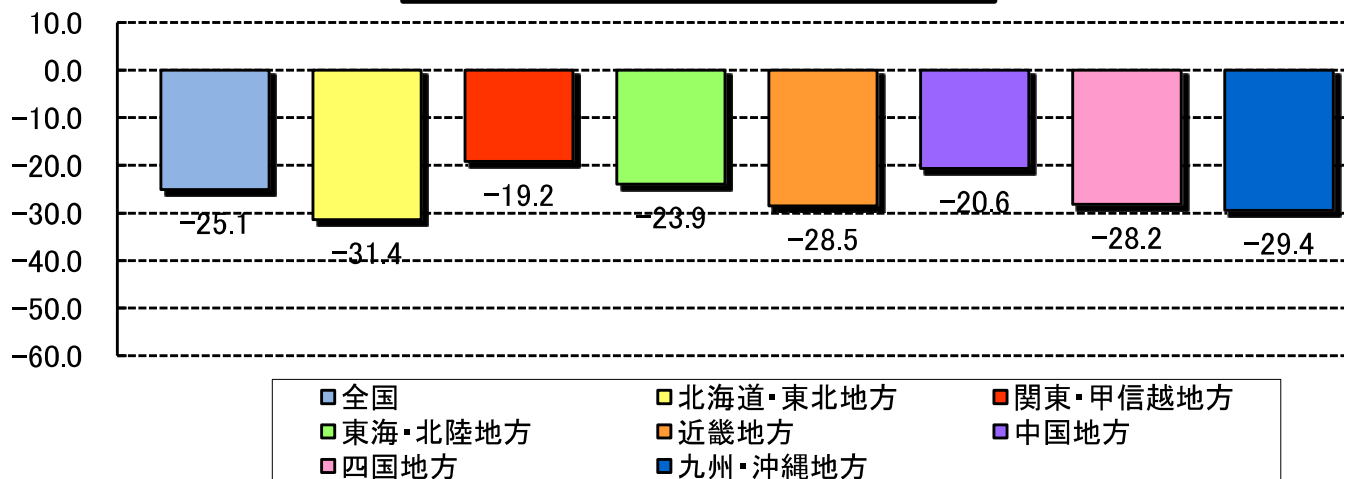
全国及び各地域別の【業界の景況DI(全体)】
(平成30年9月末現在・前年同月比)



全国及び各地域別の【売上高DI(全体)】
(平成30年9月末現在・前年同月比)



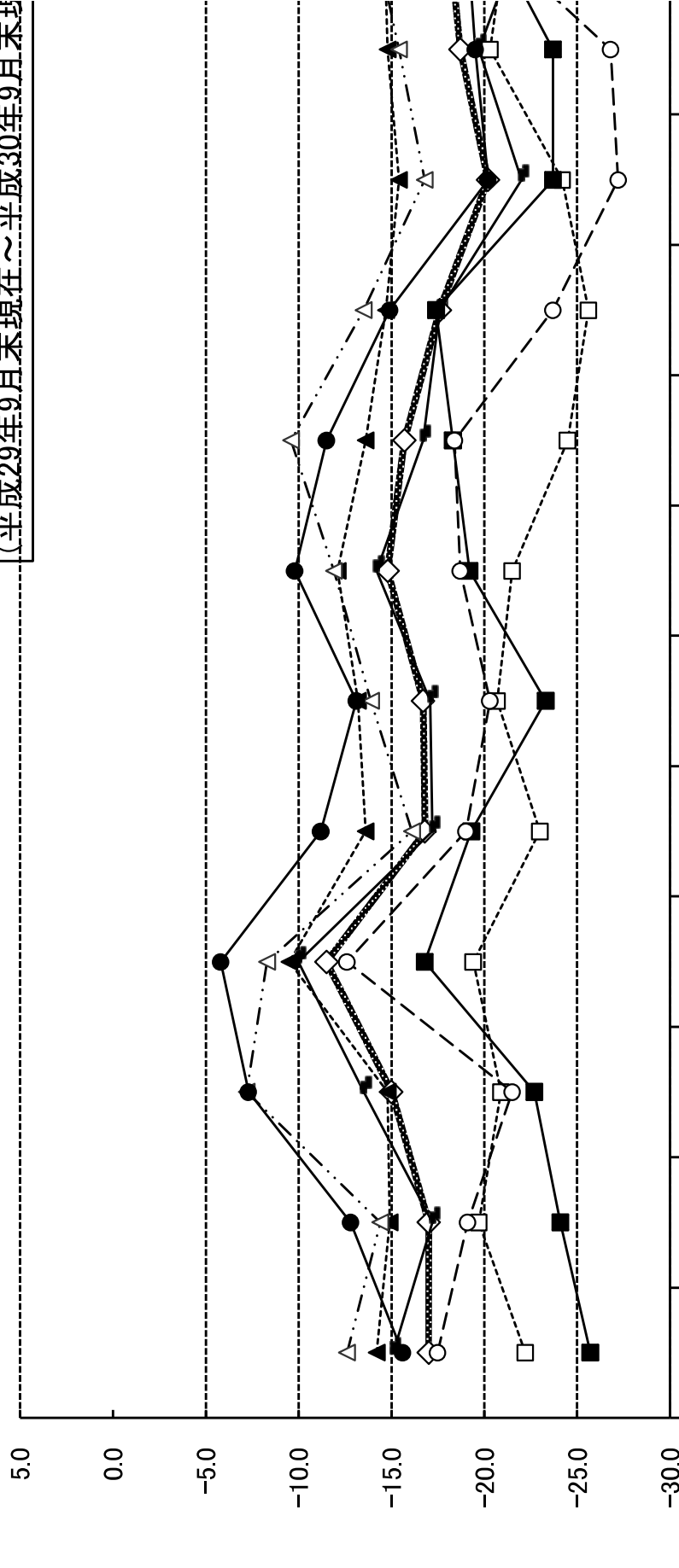
全国及び各地域別の【収益状況DI(全体)】
(平成30年9月末現在・前年同月比)



〔北海道・東北地方〕
〔関東・甲信越地方〕

北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、長野県、山梨県

全国及び各地域別の【業界の景況DI】
(平成29年9月末現在～平成30年9月末現在)



	9月末	10月末	11月末	12月末	30年 1月末	2月末	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末
系列1	-17.0	-17.0	-15.0	-11.5	-16.8	-16.7	-14.8	-15.7	-17.6	-20.2	-18.7
系列2	-22.2	-19.7	-20.9	-19.4	-23.0	-20.7	-21.5	-24.5	-25.6	-24.2	-20.3
系列3	-14.2	-14.9	-14.8	-9.5	-13.6	-13.2	-12.1	-13.6	-14.7	-15.4	-14.8
系列4	-12.6	-14.4	-7.2	-8.3	-16.1	-13.9	-11.9	-9.6	-13.5	-16.8	-15.4
系列5	-25.7	-24.1	-22.7	-16.8	-19.3	-23.3	-19.2	-18.3	-17.4	-23.7	-23.7
系列6	-15.6	-12.8	-7.3	-5.8	-11.2	-13.1	-9.8	-11.5	-14.9	-20.2	-19.5
系列7	-17.5	-19.1	-21.5	-12.6	-19.0	-20.3	-18.7	-18.4	-23.7	-27.2	-26.8
系列8	-15.1	-17.2	-12.5	-10.0	-17.2	-17.1	-14.2	-16.7	-17.6	-22.0	-19.7

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品製造業

1. **＜北海道 水産食料品＞**
原材料価格の高止まりで販売価格が上がり、売上高の減少が続いていたところに、地震・停電の影響で原材料在庫と陳列商品の廃棄が重なりダメージは大きい。
2. **＜茨城県 納豆＞**
健康食ブームにより、納豆の消費が伸びているが、人手不足により増産ができない企業が多い。原油・資材・人件費等の高騰により先行きが不透明。
3. **＜岐阜県 牛乳＞**
台風21号と北海道胆振東部地震の影響により生乳需給の逼迫が常態化している。全国的な生乳不足が学校給食用牛乳及び市販牛乳の安定供給に向けて深刻な影響を与えることが懸念される。
4. **＜岡山県 豆腐＞**
原材料及び資材等の価格が上がってきているが、それを売価に反映できない状況であり今後の収益に悪影響を及ぼす見込み。
5. **＜福岡県 その他の製造業＞**
酪農家の減少による原料乳不足が喫緊の課題。消費が伸び悩む中、販売価格の値下げが懸念される。
6. **＜沖縄県 パン製造業＞**
台風24号の影響を受け、停電等で工場生産を停止した為、売上が減少した。また、廃棄した材料・半製品のパンや生地があり、収益に影響があった。

繊維・同製品製造業

7. **＜東京都 帆布製品製造業＞**
10月～11月頃までに、あらゆる商品の仕入単価が値上げになる。それに伴い、販売価格も値上げしたいが、業界の景況は非常に厳しく、値上げが簡単に出来そうにない。
8. **＜石川県 織物業＞**
原材料の生糸やポリエステル糸価格の高止まり、生産関連資材、流通コストの高騰に対する適正な価格転嫁は難しく、採算性は非常に厳しい状況が続いている。
9. **＜岐阜県 紳士服＞**
紳士服を取り扱う専門店の売上が低下している。業界の景況が悪化している要因として、消費の低迷や、度重なる自然災害によって消費マインドが低下していることが挙げられる。
10. **＜三重県 テントシート＞**
石油製品、運送費、人件費などが上昇傾向にあり、材料の値上げが決定されている。台風の被害が県内各地にもあり、被害復旧の仕事が増えてきている。
11. **＜和歌山県 その他の繊維製品製造＞**
9月は台風21号の影響により多くのメリヤスの工場が被害を受けた。中には屋根が飛んでしまうなどの甚大な被害を受けた工場もあり、今後の復旧も大変である。
12. **＜愛媛県 タオル＞**
依然として消費マインドが上がらず、問屋・百貨店・小売店の販売状況は厳しい。物流費や電気料金、燃料費などの上昇に加え、原材料費の高騰により、コストが上昇している。

木材・木製品製造業

13. **＜北海道 一般製材＞**
原木入荷が相変わらず悪いことに加え、胆振東部地震による停電の影響で2日間の工場生産停止となり、生産量低下に拍車をかけた。
14. **＜秋田県 一般製材＞**
受注はあるものの、原材料であるスギ丸太が集まらず、工場はフル稼働していない状況。原木の供給不足から仕入価格が高騰しており、収益を悪化させていることから、景気回復の実感はない。
15. **＜群馬県 製材業・木製品製造業＞**
販売単価に大きな変動はないが、原木の出荷不足に加え原材料価格の高騰が続き収益が悪化。
16. **＜東京都 建具製造業＞**
首都圏の住宅着工数が、前年比を下回っているため、全体的に仕事量が減少傾向にある。また、資材の原材料費の高騰により、下期に向けての景況が不安視される。

17. <大阪府 木材加工業>
台風による屋根被害が甚大でなかなか復旧できない。今後木材業界も応急対応できる組織づくりが必要である。
18. <和歌山県 建具製造>
台風21号の影響で、工場建屋・電気設備並びに加工機等に風水害被害を受けた組合員が多数発生。事業の継続を諦めかける組合員もいた。

紙・紙加工品製造業

19. <福井県 和紙工業>
繁忙期の9月を迎え、注文も入ってきているが、長らくの低迷期で生産規模を落としてしまっていることもあり、急な需要には対応しきれない面もある。今後、年末までの需要期の動きを注視したい。
20. <岐阜県 機械すき和紙>
業界の景況が悪化している要因として、原油価格の上昇、輸入パルプ価格の上昇等々によりコストアップが続いていることが挙げられる。加えて、有効求人倍率に表れてもいるが人材確保に苦労している。
21. <愛知県 段ボール>
対前年比で稼働日が2日少なく、悪天候や災害の反動から荷動きは芳しくない状況で推移している。米中貿易摩擦の影響から、輸出古紙価格は上昇傾向が続いている。
22. <大阪府 古紙収集加工業>
9月は台風21号の影響で古紙問屋の工場も被災を受けている。発生量は例年にくらべ低調。
23. <鳥取県 パルプ・紙・紙加工品製造業>
需要期ながら全般的に低調に推移。円安や品不足で輸入原材料が上昇傾向にあり、収益も悪化傾向。生産調整で対応しているが、厳しい状況にある。
24. <愛媛県 紙製品>
原紙や段ボール、その他副資材や運賃等、すべて値上げの交渉が激しくなっている。各社によって差はあるものの、総じてコストアップ要因ばかりが目立ってきた。

印刷

25. <栃木県 印刷業>
ニーズの変化、需要の停滞、過当競争、低価格、資材等の値上げなど厳しい経営環境に変わりはない。
26. <石川県 印刷・同関連業印刷>
売上、収益とも低調。全国的な大きな災害が相次ぐ中で、物流の停滞から印刷用紙の入手が困難となった事例が発生。特にオフセット輪転機の稼働率が例年になく低調であった。
27. <徳島県 印刷・同関連業印刷>
8月以降業界内で廃業が続いている。情報が入ってくる会社は動きが活発なのだが、全く情報が入ってこない会社は会社の動きそのものが停滞しているようだ。
28. <香川県 印刷>
紙・インクの消費量が年々減少傾向にあるが、印刷会社も同様に減少し、既存の事業所の努力により、現状維持か微増減を確保しているのが現状。将来の展望が予測できないという意見が多い。
29. <長崎県 印刷>
前年同月比において売上高は減少、収益状況及び資金繰りは共に悪化。厳しい状況になって相当の期間が経過しているが、この先に良い状況がなかなか見えてこない。
30. <宮崎県 印刷・同関連業印刷>
人材確保に苦戦している。これから繁忙期を迎えるので、従業員と共に乗り切らなければならない。そのため、働き方改革を努力しているが、難しい。

化学・ゴム

31. <神奈川県 石油製品>
この上半期は、前年同期に比べ出荷量、売上ともに好結果となった。一方で、原油価格の高止まり等による生産費用上昇により収益状況は悪化している。
32. <愛知県 高圧ガス>
原油価格が上昇傾向で推移しており、採算性への悪影響が予想される。荷動きは順調だが、地震・台風等の自然災害が生産活動へ若干影響を及ぼしており、マイナス要因となっている。
33. <京都府 プラスチック製品製造業>
電子部品、車載部品の受注先によって、売上高、収益の明暗の二極化が顕著化。共通しているのはプラスチック原材料の値上げによるコスト増加であり、今後の大きな不安材料。
34. <和歌山県 化学工業>
大型台風21号による農林水産業の被害が多額となる中で、更なる台風・地震が発生し、大きな被害が出ていることから、国内経済の回復に急ブレーキがかかるのではと不安視している。

35. **< 島 根 県 プラスチック製品製造 >**
米中貿易摩擦の影響から産業機器向け部品の中国オーダーが減少し、関連部品の売上減となっている。自動車向け部品については、目先の受注は堅調だが、将来的な見通しとしては不安感が高い。
36. **< 岡 山 県 ゴム >**
組合員の売上（操業度）は好調であるものの、収益的には原材料、人件費等の増加により計画通りには進捗していない。販売単価も好転しておらずこの傾向は来年度にも続くことが予想される。

窯業・土石製品製造業

37. **< 東 京 都 セメント製品製造業 >**
公共事業が低調。価格競争が厳しい中で、材料費が値上がりし、価格転嫁が難しい。また人材不足も厳しい状況。
38. **< 神 奈 川 県 砕石 >**
台風など多雨の影響で大型案件を中心とした公共工事が順延している。加えてマンション・ビルの民需も弱めの動きで、骨材出荷がもたつき、売上は単月で減少した。
39. **< 徳 島 県 生コンクリート >**
9月も昨年同月に比べて約30%近く出荷量が減少しており、昨年度と比べて6ヶ月連続のマイナス。官公需、民需ともに減少しており、需要増はまず期待できない状況にある。
40. **< 愛 媛 県 窯業・土石製品製造業 >**
9月は先月までの台風や豪雨により雨漏り修理や瓦葺き替え工事の依頼が増加した。それに伴い製造、施工とも忙しいが人手不足が悩ましいところである。
41. **< 佐 賀 県 陶土 >**
景気の鈍化傾向がかなり厳しい状況にあるように思う。3年前に大幅な価格改定を行ったが、価格改定以前と同水準の売上に戻っており、今後にかなりの不安を覚える。
42. **< 大 分 県 コンクリート製品 >**
災害復旧関連工事の受注により、売上高が増加となった組合員が多かったが、資材値上りによる収益悪化及び慢性的な担い手不足の顕著化を訴える組合員も増え、大きな懸念材料となっている。

鉄鋼・金属製造業

43. **< 千 葉 県 鉄工 >**
受注環境は比較的良好で緩やかな景気拡大を見込んでいる。人員確保には引き続き苦労しており、老朽代替投資に加え、省力化投資を行う企業が増えている。
44. **< 東 京 都 缶製造業 >**
組合員企業の工場従業員採用が年々厳しい状況になっている。今後、人手不足の状況が改善されなければ、企業の存続に多大な影響が出る。
45. **< 新 潟 県 鉄骨製造業 >**
稼働状況は、全体として繁忙状況で推移している。一方で、材料の値上がりに加えて、高力ボルトの入手困難が顕著になり、納期を考えると受注できない案件が出てきている。
46. **< 山 梨 県 金属被覆・彫刻業・熱処理業 >**
後継者・人材確保は厳しい状況である。半導体関連・通信機器は受注調整が行われており、今後の状況に注視していく。
47. **< 大 阪 府 金属熱処理業 >**
依然として人材不足である。現状は企業ごとに人材不足を穴埋めする策を練りどうにか凌いでいるものの、今後人材不が業況に与える影響は益々大きくなる恐れも否定できない。
48. **< 鹿 児 島 県 機械金属 >**
仕事量は増加傾向で下半期に向けて段々と忙しくなる気配がある。しかし、副資材不足が顕著化し、工程に影響が出てきている。

一般機器製造業

49. **< 北 海 道 金属機械工作 >**
台風、地震・停電の影響で、工場内の設備や建物の損壊があったほか、出来上がった製品への被害もあり、各企業収益は減少。機械設備の調整・点検もあり、操業度の低下もあった。
50. **< 栃 木 県 一般機械器具製造業 >**
前年同月と比較し、僅かであるが売上増となっている。一方で、仕入単価は上昇傾向が継続しており、懸念材料となっている。相変わらず人手不足が継続。増産対応が厳しいという報告もある。
51. **< 石 川 県 機械、機械器具の製造又は加工修理 >**
そろそろ景況に影を感じている経営者も出始めている。各種経営コストの上昇に加え、以前ほどの大量受注が減少しつつある。そのため、収益については低下傾向にある企業も増えている。
52. **< 長 野 県 一般機械器具製造 >**
半導体・液晶関連が減速している。その他業種でも年明けから受発注の減少を予測する動きがある。原材料・工具・燃料等の値上げが続いており収益を圧迫している。

53. < 奈 良 県 機 械 >

受注が依然、好調な企業と陰りの見えてきている企業の双方がある。原材料の値上がりも見られる。また、人手不足は深刻である。

54. < 岡 山 県 鉄 工 >

受注は堅調で操業度も上昇しているが、原材料費が高止まりし、収益はさほど上がっていない。また、雇用面では厳しい状況にある。

電気機器製造業

55. < 長 野 県 電 子 機 械 器 具 製 造 業 >

人手不足は否めず、求人を出しても自社に合致した人材は確保できないため、受注を親会社に返している社もみられる。石油価格の高騰はコストアップにつながり、収益に影響を及ぼしている。

56. < 静 岡 県 電 気 機 械 器 具 製 造 業 >

国内外向けともに好調を維持しているが、国内向け設備受注案件において、米中貿易摩擦を要因としたキャンセルが出ており、先行き大きな懸念材料となりつつある。

57. < 愛 知 県 配 電 盤 >

中部地区に限れば改善はみられないが、首都圏の需要は伸びてきている。組合員企業の中には案件を断る会社も出てきた。物を作る「人」がいないのが最大の理由であるようだ。

58. < 三 重 県 電 気 機 械 器 具 製 造 業 >

上半期締めOfMonthであるが、下半期前倒しなどがあり、受発注共に好調である。

59. < 京 都 府 電 機 機 械 器 具 製 造 業 >

受注増に伴う高負荷のなか深刻な人材不足は継続しており、納期対応が困難な状況に至っている。電子部品の調達は更に厳しくなっている。

60. < 福 岡 県 電 気 機 械 器 具 製 造 業 >

産業用ロボット関連は、依然国内外とも好調に推移しており、来月度以降の増産を期待している。

輸送用機器製造業

61. < 神 奈 川 県 船 舶 >

韓国政府を後ろ盾した採算度外視の安値攻勢に日本の造船メーカーが喘いでいおり、軒並み赤字決算となった。日本政府は韓国政府をWTOへ提訴する構えを見せている。

62. < 静 岡 県 輸 送 用 機 械 器 具 製 造 業 >

原油価格の上昇による材料費の値上がりが引き続き懸念される。また、台風24号の停電により大きな被害が発生した。

63. < 三 重 県 輸 送 用 機 械 器 具 製 造 業 >

この1年ほど前年比プラスで推移していたが、当月はほぼ前年並みで上向き感が鈍化。地震や台風の影響で資材の供給に混乱が生じたため、生産計画にも多くの変更が必要であった。

64. < 山 口 県 鉄 道 車 両 ・ 同 部 品 製 造 業 >

西日本豪雨により主要幹線道路が一部不通となり、特に鉄道車両部門において、資材の入荷遅れが発生したため、生産計画の見直しを実施した。

65. < 愛 媛 県 造 船 >

この数年、造船業界全体が増産傾向にあったが、ここにきて、ヨーロッパやアジア、特に消費大国である中国の景気低迷により、海上荷動きが鈍化しており、海上運賃にも大きく影響し始めている。

66. < 愛 媛 県 造 船 >

新造船は3年後の船台もほぼ埋まりつつあり、修繕船も順調に受注をもらっている。しかし、作業員の確保が難しく、外国人技能実習生、造船就労者に頼らざるを得なくなっている。

その他の製造業

67. < 東 京 都 ガ ス 圧 接 業 >

稼働率が上昇のまま継続しているが、受注単価が思うように上がらない。今後、単価が上がらなければ、社会保険の加入で会社が逼迫してしまう。現状の稼働率で仕事は回っているが、資金的に厳しい状況。

68. < 東 京 都 ネ ー ム プ レ ー ト 製 造 業 >

製造業の求人はかなり厳しい状況。また若手の人材不足も課題である。

69. < 東 京 都 靴 製 造 業 >

台風や地震等の影響で、秋物の出回るペースが遅くなっている。季節商品も減少し、春物展示会用サンプルの動きも遅い。現状が続くと、相当数の組合員が厳しい状況となる。

70. < 石 川 県 プ ラ ス テ ッ ク 製 品 製 造 業 >

原材料調達を行う企業については原油の高騰、納期の長期化、円安、原油の品不足などにより原材料が昨年から高騰し、更に今年後半も高騰している為、収益を圧迫している状況が続いている。

71. < 愛 知 県 工業用模型 >

自動車関係は足踏み状態のように感じる。工作機械関係では、少しずつだが仕事量が増えてきた会社が多い。

72. < 福 岡 県 量等生活雑貨製品製造業 >

消費者の量替え工事等の注文年数が長期化している。以前は5～8年以内だったが、現在は10年以上～20年経過してからの注文が徐々に増加しつつある。今年は台風が多発し、受注に影響も出ている。

《非製造業》

卸売業

73. **＜ 埼 玉 県 卸売業 ＞**
組合員間で団地内の施設の譲渡話が数件出ている。譲渡側は何れも大企業の出先事業所で、事業所の集約化により本団地からの撤退を余儀なくされたもの。今後も同様のケースが増えてくる事が予想される。
74. **＜ 岩 手 県 野菜果実卸売業 ＞**
台風や北海道胆振東部地震の影響などで入荷状況が不安定な時もあったが、概ね野菜類は順調に入荷。単価は高値で推移し、取扱金額は前年を大きく上まわった。
75. **＜ 秋 田 県 商業卸 ＞**
需要の停滞、仕入単価の上昇、小売業の進出による競争激化から、卸売業を取り巻く環境はまだまだ厳しい。
76. **＜ 千 葉 県 総合卸売 ＞**
近年、主要販売先である小売店（＝専業文房具店）が極端に減少。ネット販売業者やコンビニ、スーパー等に販売先が大きく変わり、納入価格が抑えられ利幅が減少している。
77. **＜ 高 知 県 各種商品卸売業（団地） ＞**
景気回復が感じられない。量販店、外食店ともに人材不足と売上低下に苦戦しており、店舗数の削減、営業時間の短縮等が目につくようになってきた。
78. **＜ 熊 本 県 各種商品卸売業 ＞**
組合全体での景況は、組合員間に差はあるものの前月並みの売り上げを維持している。震災後の復興需要もやや落ち着いてきており他業種も前月と同様、売上は横ばい。

小売業

79. **＜ 福 島 県 石油 ＞**
OPECの増産見送り、米国のイラン制裁の継続などにより原油価格が高騰したため、国内石油生産価格も急激に上昇中。価格上昇に伴う消費者の買い控えなどにより業況は悪化している。
80. **＜ 滋 賀 県 ショッピングセンター・共同店舗 ＞**
二度の台風による臨時休業や時間短縮に加え、退店増加により売り場面積が縮小。台風後の消費マインド低下により売上は厳しい状況。
81. **＜ 京 都 府 家庭用機械器具小売業 ＞**
9月前半は台風21号の影響で、京都府南部を中心とした地域でお客様のアンテナの倒壊や家屋の被害等の処理のため販売活動が低迷し、全体で販売を落とした。
82. **＜ 広 島 県 各種商品小売業 ＞**
北海道での地震、相次ぐ台風により青果・鮮魚の入荷や店頭販売が先月に続き低調であった。野菜・魚相場の高値傾向は当面続く見通し。景気回復の要因が見当たらない。
83. **＜ 山 口 県 各種商品小売業 ＞**
災害が起きると小売商業は停滞するが、9月も台風の影響を受けることが多かった。豪雨災害の復旧が進んでいたが、台風により再び流通に障害が起こり、買い控えへとつながった。
84. **＜ 佐 賀 県 食料品（青果） ＞**
北海道胆振東部地震や台風で物流が停滞したこと等により、ほとんどの野菜が不足して高値が続いたの
で、品揃え、販売に苦労させられた。

商店街

85. **＜ 香 川 県 丸亀市 ＞**
台風で警報発令が相次ぎ、街の施設も臨時休館が続いた。店も「開けてもダメ」と諦めムードで、朝から閉めている店が従来に比べて多かった。
86. **＜ 山 形 県 山形市 ＞**
経営状況の良い店と悪い店の差が大きくなっており、特に悪い店が更なる悪化に見舞われている。再開発事業の着手が明るい材料となることを期待している。
87. **＜ 京 都 府 京都市 ＞**
台風21号は今までになく大きな被害をもたらした。特に、関西では関西国際空港の閉鎖に伴って外国人がめっきり減り、売上減に大きく響いた。
88. **＜ 大 阪 府 大阪市東住吉区 ＞**
度重なる台風や地震等の自然災害で消費意欲が冷え切っている。
89. **＜ 広 島 県 呉市 ＞**
店主の高齢化と後継者不在により、12月末で商店街内の老舗呉服店が廃業。同様の理由による廃業が増加している。

90. < 長 崎 県 大村市 >
前年同月比において売上高は減少、収益状況、資金繰りは共に悪化。商店街がシャッター通りになってしまい、去年の今頃を比べると、人通りも半分くらいになってしまった。

サービス業

91. < 福 島 県 クリーニング業 >
毎月の売上高が毎年同月を下回る状況が続いている。ドライ溶剤・洗剤・包装資材等、石油製品に依存している業界であり、原油価格の高騰により収益が圧迫している。
92. < 青 森 県 自動車整備業 >
9月は車検の入庫台数が多く、収益状況も前年同月と比べやや好転する結果となった。
93. < 山 梨 県 警備業 >
9月は台風等の天候悪化による業務のキャンセルや警備員不足による受注削減により売上が下方に向かっている。人材不足は深刻であり、求人募集を行うが応募者はほほいさない状況。
94. < 岐 阜 県 長良川畔旅館 >
9月は度重なる悪天候による鵜飼の中止が計13日間にも渡り、過去には例がない程となった。幸い、インバウンドの外国人観光客については行き先の変更もなく、前年同月比プラスで推移している。
95. < 島 根 県 ホテル >
水害の影響は少なくなったものの、毎週末の台風などで観光客のマインドが低下しており、弱含みの状況。県と市・国のインセンティブなどで何とか維持をしている状況が見受けられる。
96. < 高 知 県 飲食店 >
台風と悪天候の影響で観光客が少なく、県内容にも外食控えがあった。売上増が期待された連休の集客が非常に少なく、業界の景況がはっきりと悪化した。

建設業

97. < 宮 城 県 シーリング工事 >
9月は官公庁発注の改修工事や民間マンションの新築工事などを中心に引き続き活発な需要が喚起されていたが、それに加えて比較的大型のマンション改修工事も活発化し、多忙な月であった。
98. < 秋 田 県 電気工事 >
災害復旧工事が急ピッチで進み、土木業界は活況を呈している。それに関連する業種も恩恵を受けている。
99. < 山 梨 県 型枠大工工事業 >
公共工事の増加、及び消費税増税前の民間工事の増加に伴い、非常に忙しくなることが予想される。しかし、人材不足、賃金及び材料の高騰など、対応が厳しい状況である。
100. < 和 歌 山 県 板金・金物工事業 >
9月は台風に罹災した影響で、鋳金業界は過去に例を見ないくらい異常な受注により修繕工事に追われている。各組合員も毎日休暇返上で仕事に追われている状況。
101. < 岡 山 県 木造建築 >
7月の豪雨災害支援の改修工事増大のため、お客様のご依頼を断っている状態が続いている。
102. < 山 口 県 管工事業 >
公共工事発注のピークを迎え、仕事量は安定しているが、原油の高騰と人員不足が問題。相変わらずの工事作業員に加え、交通誘導員も不足しており、事業者間で取り合いになることもある。

運輸業

103. < 秋 田 県 トラック >
軽油価格が更に上昇し、前年同月比1㍲あたり20円上昇した。燃料高騰分を運賃に転嫁できていない業者がほとんどであり、既に採算割れしている状況に達している。
104. < 神 奈 川 県 道路貨物 >
人手不足は、慢性的であり、改善の兆しは見えない。その影響で売上高も減少傾向にある。また、最近の原油価格の高騰で収益状況も悪化している。
105. < 兵 庫 県 道路貨物運送業 >
先月末あたりから、輸送トラックの需要と供給のバランス大きく崩れだしている。これまでは、荷主のオーダーは絶対であったが、車両・ドライバー不足により断りを入れる傾向がはっきり現れてきている。
106. < 山 口 県 一般貨物自動車運送業 >
輸送受注は、対前年同月比で約6%増加した。業績は好転しているが、相変わらず乗務員不足に苦しむ。高値ながらも安定していた燃料費も上昇気味である。
107. < 香 川 県 タクシー >
営業収入、輸送人員とも減少しており、非常に厳しい経営状況が続いている。乗務員不足が深刻化しており、配車依頼に十分対応できていない状況。

108. < 宮 崎 県 軽貨物運送業 >

営業関係は新規案件が少々であるが増加傾向だが、各業界同様に人手不足が深刻。燃料関係は依然として高止まりで推移しており、組合員の経営を圧迫している。

その他の非製造業

109. < 秋 田 県 砂利 >

公共工事発注の最盛期を迎え、生コン用骨材出荷量は例年より若干増加している。

110. < 神 奈 川 県 歯科技工 >

先月の天候異変により、仕事が9月に繰延べし、売上増加及び在庫の減少につながったことにより景況は好転。

111. < 神 奈 川 県 不動産 >

IT企業が不動産業界に参入してきている。今は売買でも賃貸でもバーチャル空間での物件案内程度だが、投資物件となるとビッグデータをもとに色々な提案をしているようだ。

112. < 富 山 県 不動産取引業 >

北陸新幹線開業効果や来年予定の消費税増税前の郊外の住宅地購入の駆け込みがみられ、県内の上昇地点数は38地点で、前年19地点の倍増となった。

113. < 兵 庫 県 ディスプレイ業 >

業界的には9月から年末、年始かけて動きが顕著に見られる。商業施設では、ハロウィン、クリスマス向けのディスプレイ色となる。

114. < 岡 山 県 信用組合 >

7月豪雨の影響も一段落し、全体的に少しずつではあるが、売上等も回復しつつある印象を受ける。